

将来目指すべき滋賀の姿についてのアンケート結果

県では、平成 23 年 3 月に策定した滋賀県基本構想に基づいて、人と人との絆をつなぎ、人と自然がつながる中で、県民の皆さんの不安の解消や社会的な課題の解決を行い、生活の満足度を高め、社会の質を高めるとともに、新たな需要や雇用を創出し、経済的な活力を高め、「住み心地日本一の滋賀」を実現するため、様々な施策を展開しています。

この基本構想が、平成 26 年度末で計画期間を終了し、次期の基本構想を策定するにあたり、県民の皆さまが現在の生活の豊かさをどう感じておられるのか、豊かさの向上には何が必要であるのか、どのようなことを大切にしたいのか等についてアンケート調査を実施させていただきました。

★調査時期：平成 26 年 8 月 5 日～8 月 25 日

★対象者：県政モニター（397 名）

★回答数：313 名（回収率 78.8%）

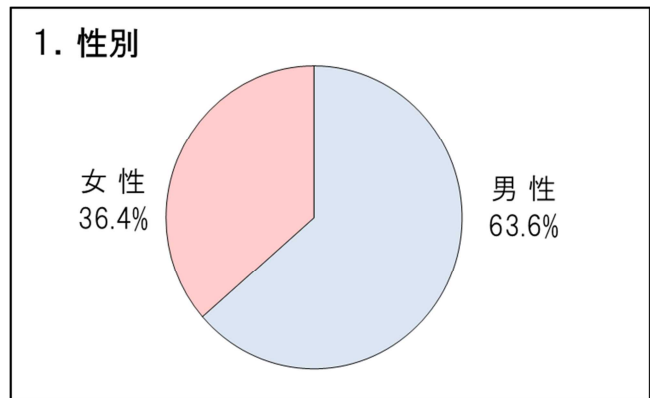
★担当課：企画調整課

（※四捨五入により割合の合計が 100.0%にならない場合があります。）

【回答者の属性】

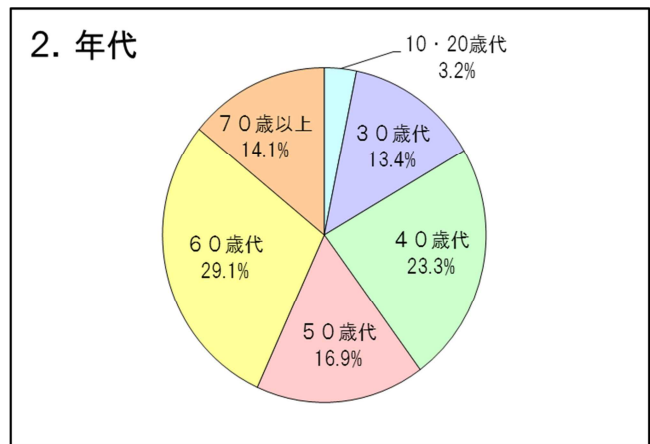
1. 性別

性別	人数	割合
男性	199人	63.6%
女性	114人	36.4%
計	313人	100.0%



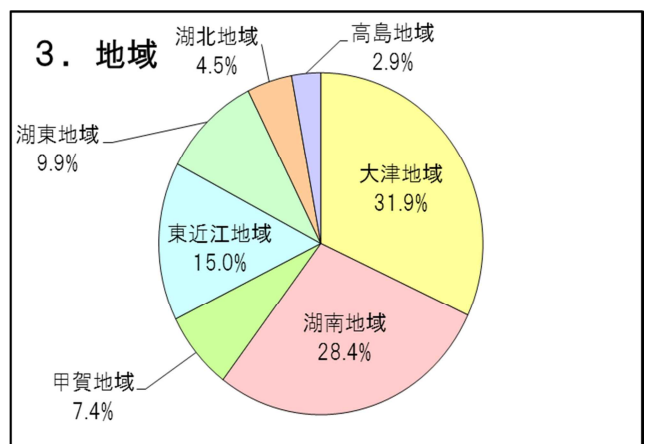
2. 年代

年代	人数	割合
10・20歳代	10人	3.2%
30歳代	42人	13.4%
40歳代	73人	23.3%
50歳代	53人	16.9%
60歳代	91人	29.1%
70歳以上	44人	14.1%
計	313人	100.0%



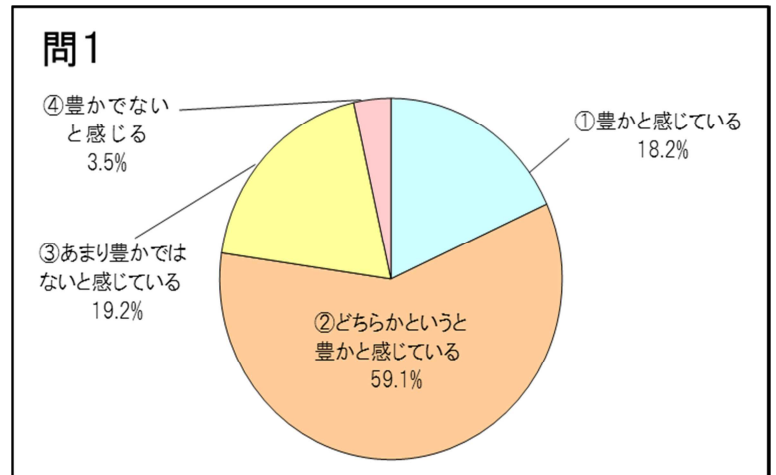
3. 地域

居住地域	人数	割合
大津地域	100人	31.9%
湖南地域	89人	28.4%
甲賀地域	23人	7.4%
東近江地域	47人	15.0%
湖東地域	31人	9.9%
湖北地域	14人	4.5%
高島地域	9人	2.9%
計	313人	100.0%



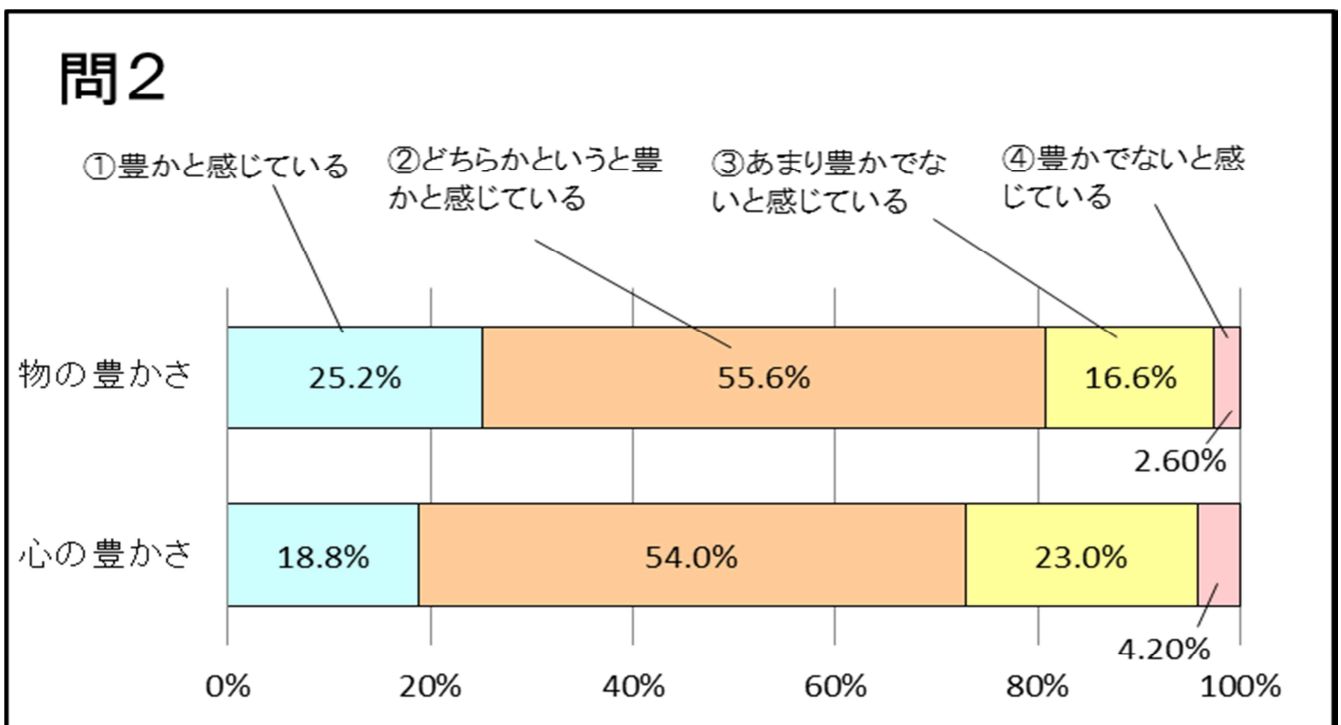
問1 あなたは、日々の暮らしの中で「豊かさ」についてどう感じていますか。あなた自身の気持ちに最も近いものを次の中から1つだけお選びください。(n=313)

項目	人数	割合
①豊かと感じている	57人	18.2%
②どちらかという豊かと感じている	185人	59.1%
③あまり豊かではないと感じている	60人	19.2%
④豊かでないと感じる	11人	3.5%
計	313人	100.0%



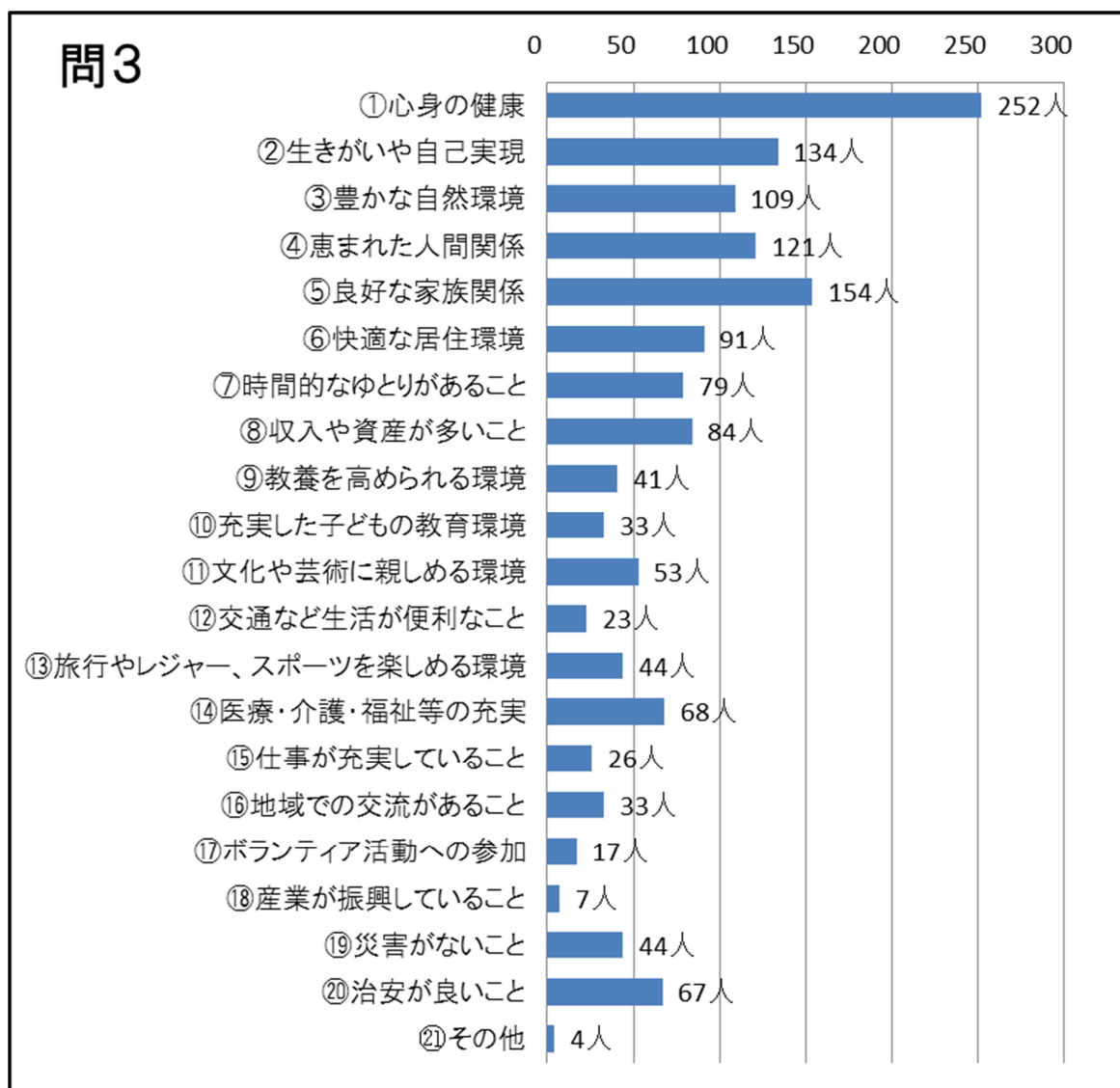
問2 あなたは、「豊かさ」のうち「物の豊かさ」と「心の豊かさ」についてどう感じていますか。あなた自身の気持ちに最も近いものをそれぞれ選んでください。(n=313)

項目	①豊かと感じている	②どちらかという豊かと感じている	③あまり豊かではないと感じている	④豊かでないと感じている	計
物の豊かさ	79人 (25.2%)	174人 (55.6%)	52人 (16.6%)	8人 (2.6%)	313人 (100.0%)
心の豊かさ	59人 (18.8%)	169人 (54.0%)	72人 (23.0%)	13人 (4.2%)	313人 (100.0%)



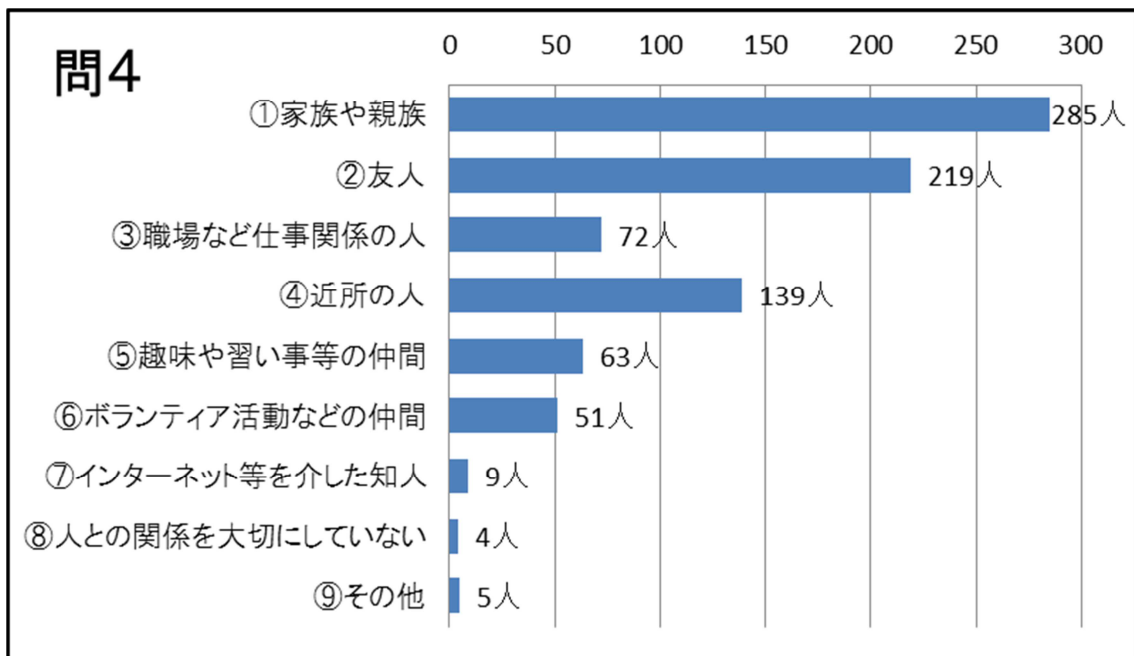
問3 あなたにとって、「豊かさ」の向上につながるのは、どのようなことですか。次の中から最もあてはまるものを5つまでお選びください。(n=313)

項目	人数	割合	項目	人数	割合
①心身の健康	252人	80.5%	⑫交通など生活が便利なこと	23人	7.3%
②生きがいや自己実現	134人	42.8%	⑬旅行やレジャー、スポーツを楽しめる環境	44人	14.1%
③豊かな自然環境	109人	34.8%	⑭医療・介護・福祉等の充実	68人	21.7%
④恵まれた人間関係	121人	38.7%	⑮仕事が充実していること	26人	8.3%
⑤良好な家族関係	154人	49.2%	⑯地域での交流があること	33人	10.5%
⑥快適な居住環境	91人	29.1%	⑰ボランティア活動への参加	17人	5.4%
⑦時間的なゆとりがあること	79人	25.2%	⑱産業が振興していること	7人	2.2%
⑧収入や資産が多いこと	84人	26.8%	⑲災害がないこと	44人	14.1%
⑨教養を高められる環境	41人	13.1%	⑳治安が良いこと	67人	21.4%
⑩充実した子どもの教育環境	33人	10.5%	㉑その他	4人	1.3%
⑪文化や芸術に親しめる環境	53人	16.9%			



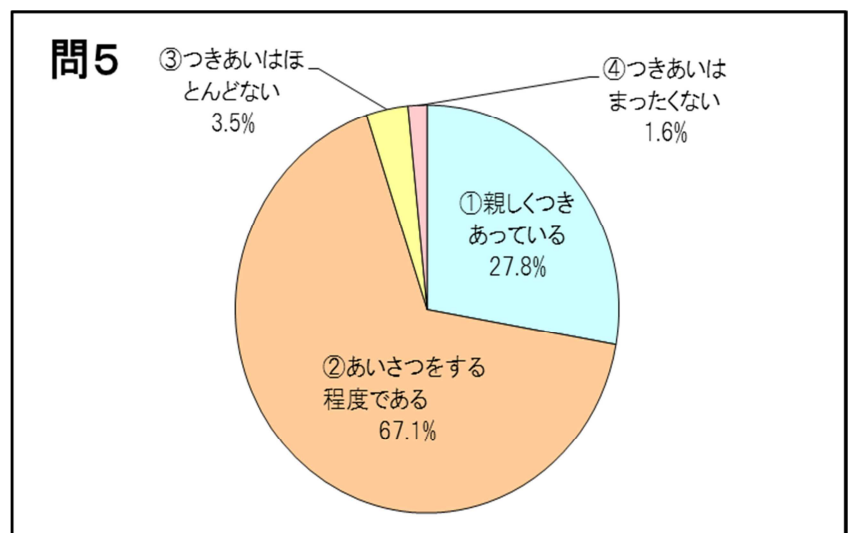
問4 あなたは、日頃の生活において、どのような人との関係を大切にしていますか。次の中から最もあてはまるものを3つまでお選びください。(n=313)

項目	人数	割合	項目	人数	割合
①家族や親族	285人	91.1%	⑥ボランティア活動などの仲間	51人	16.3%
②友人	219人	70.0%	⑦インターネット等を介した知人	9人	2.9%
③職場など仕事関係の人	72人	23.0%	⑧人との関係を大切にしていない	4人	1.3%
④近所の人	139人	44.4%	⑨その他	5人	1.6%
⑤趣味や習い事等の仲間	63人	20.1%			



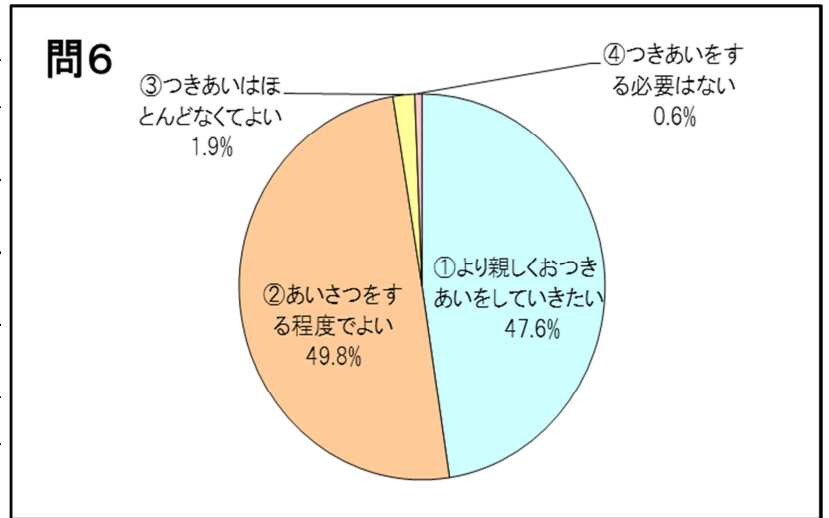
問5 あなたは、近所の人とどの程度おつきあいされていますか。次の中から最も当てはまるものを1つだけお選びください。(n=313)

項目	人数	割合
①親しくつきあっている	87人	27.8%
②あいさつをする程度である	210人	67.1%
③つきあいはほとんどない	11人	3.5%
④つきあいはまったくない	5人	1.6%
計	313人	100.0%



問6 あなたは、近所の人とのつきあいについて、これからどうしていきたいと考えていますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを1つだけお選びください。(n=313)

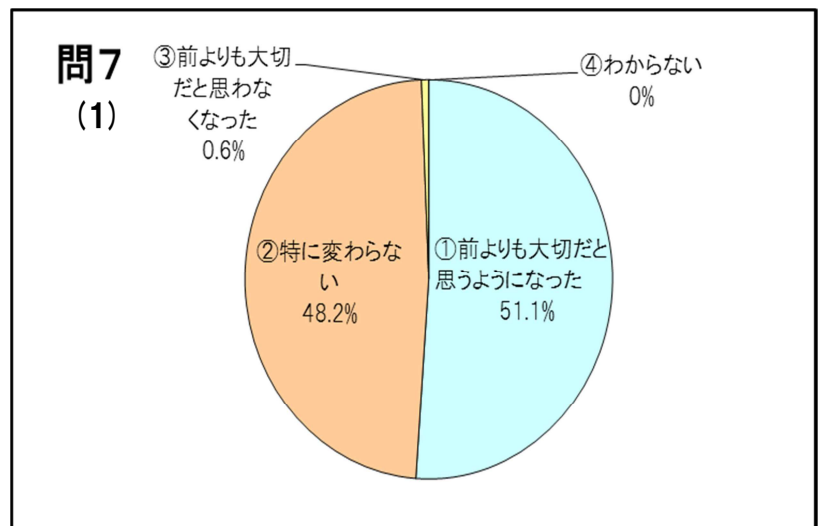
項目	人数	割合
①より親しくおつきあいをしていきたい	149人	47.6%
②あいさつをする程度でよい	156人	49.8%
③つきあいはほとんどなくてよい	6人	1.9%
④つきあいをする必要はない	2人	0.6%
計	313人	100.0%



問7

(1) 東日本大震災の発生や局所豪雨による自然災害の多発などを契機に、社会との結びつきが大切だという意識が高まったといわれていますが、あなたはどうか。次の中から最もあてはまるものを1つだけお選びください。(n=313)

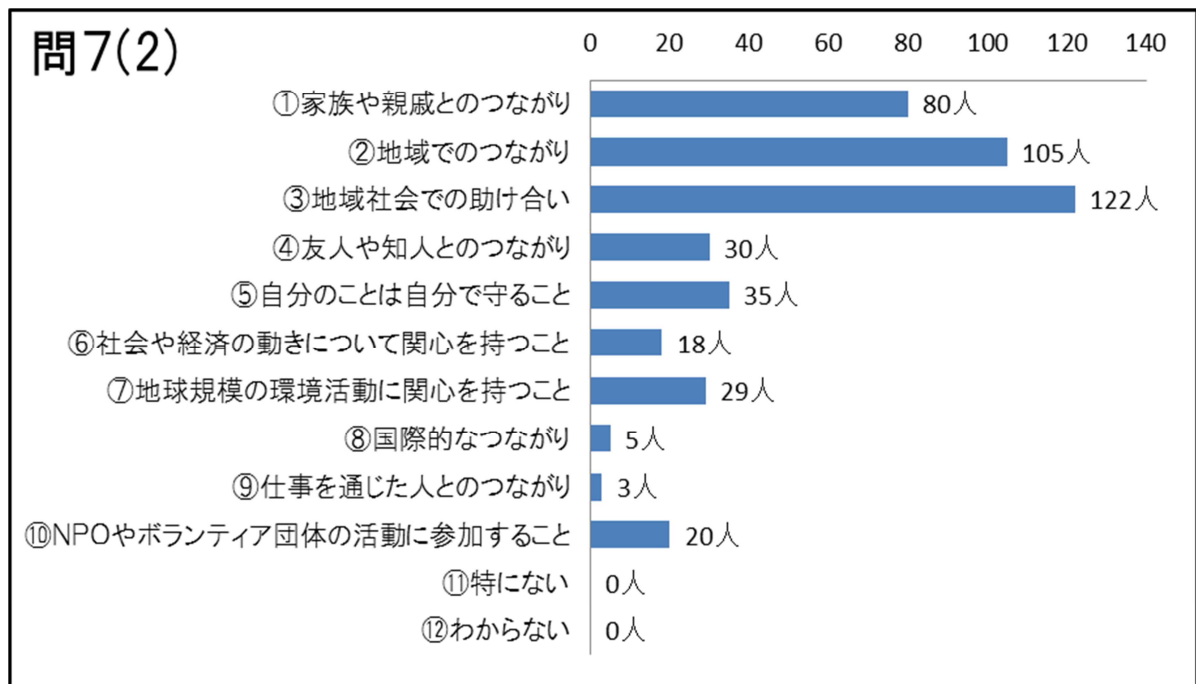
項目	人数	割合
①前よりも大切だと思うようになった	160人	51.1%
②特に変わらない	151人	48.2%
③前よりも大切だと思わなくなった	2人	0.6%
④わからない	0人	0.0%
計	313人	100.0%



(2) ※【問7】(1)で①と回答された方のみ

あなたが前よりも大切だと思うようになったことは、どのようなことですか。次の中から3つまでお選びください。(n=160)

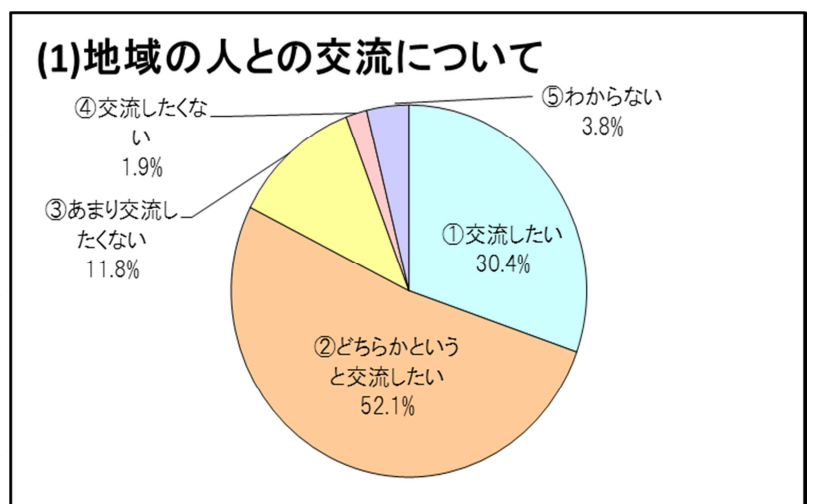
項目	人数	割合	項目	人数	割合
①家族や親戚とのつながり	80人	50.0%	⑦地球規模の環境活動に関心を持つこと	29人	18.1%
②地域でのつながり	105人	65.6%	⑧国際的なつながり	5人	3.1%
③地域社会での助け合い	122人	76.3%	⑨仕事を通じた人とのつながり	3人	1.9%
④友人や知人とのつながり	30人	18.8%	⑩NPOやボランティア団体の活動に参加すること	20人	12.5%
⑤自分のことは自分で守ること	35人	21.9%	⑪特にない	0人	0.0%
⑥社会や経済の動きについて関心を持つこと	18人	11.3%	⑫わからない	0人	0.0%



問8 あなたは、老後をどのように過ごしたいとお考えですか。次の設問ごとに、あなたのお考えに最も近いものを1つだけお選びください。

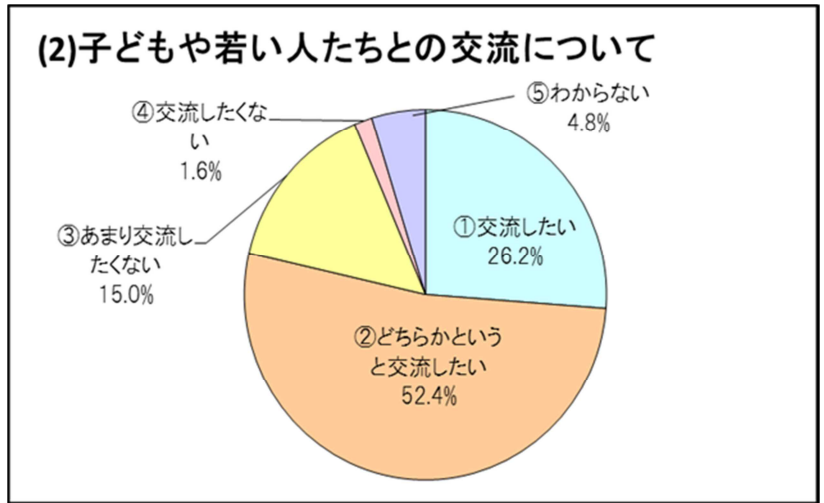
(1) 地域の人との交流について (n=313)

項目	人数	割合
①交流したい	95人	30.4%
②どちらかという交流与合作したい	163人	52.1%
③あまり交流したくない	37人	11.8%
④交流したくない	6人	1.9%
⑤わからない	12人	3.8%
計	313人	100.0%



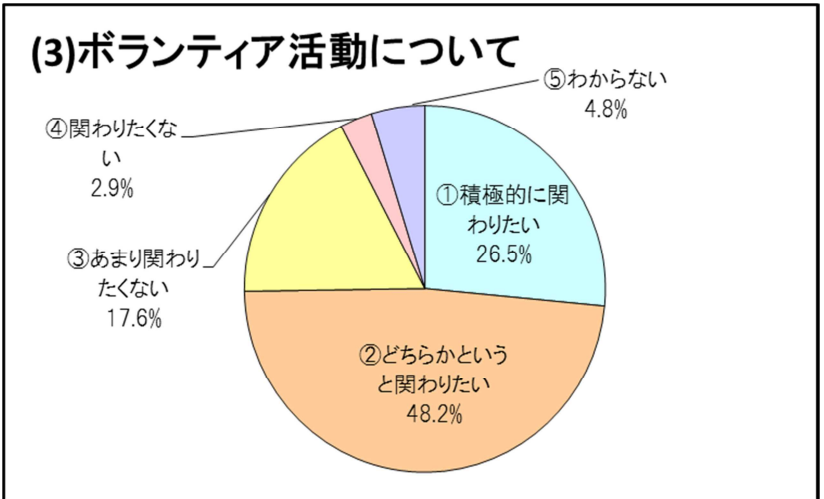
(2) 子どもや若い人たちとの交流について (n=313)

項目	人数	割合
①交流したい	82人	26.2%
②どちらかという和交流したい	164人	52.4%
③あまり交流したくない	47人	15.0%
④交流したくない	5人	1.6%
⑤わからない	15人	4.8%
計	313人	100.0%



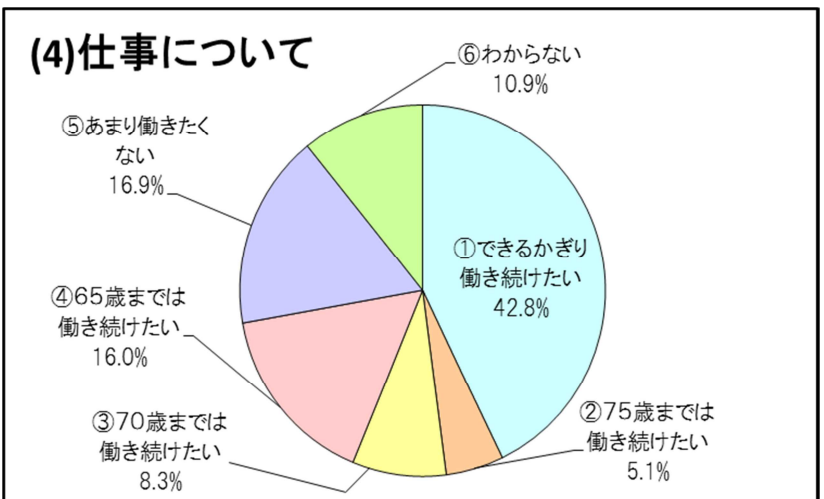
(3) ボランティア活動について (n=313)

項目	人数	割合
①積極的に関わりたい	83人	26.5%
②どちらかというに関わりたい	151人	48.2%
③あまり関わりたくない	55人	17.6%
④関わりたくない	9人	2.9%
⑤わからない	15人	4.8%
計	313人	100.0%



(4) 仕事について (n=313)

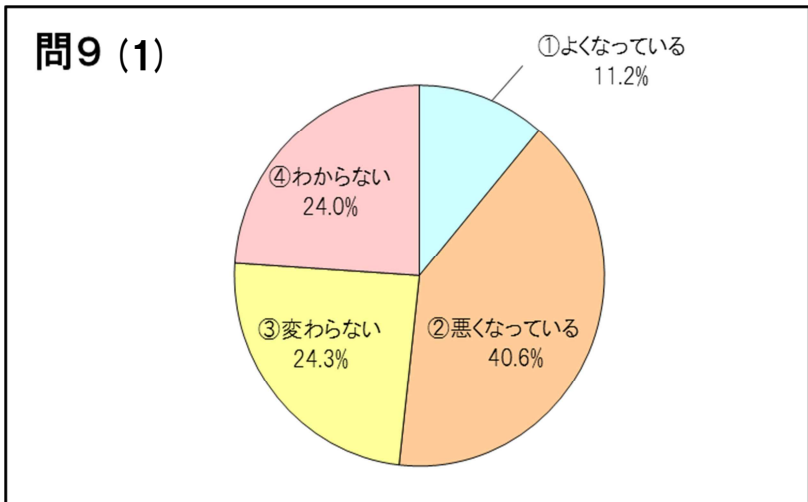
項目	人数	割合
①できるかぎり働き続けたい	134人	42.8%
②75歳までは働き続けたい	16人	5.1%
③70歳までは働き続けたい	26人	8.3%
④65歳までは働き続けたい	50人	16.0%
⑤あまり働きたくない	53人	16.9%
⑥わからない	34人	10.9%
計	313人	100.0%



問9

(1) あなたは、ご自身の将来の暮らしは、現在と比べてどのようになっていると思いますか。次の中から最も近いものを1つだけお選びください。(n=313)

項目	人数	割合
①よくなっている	35人	11.2%
②悪くなっている	127人	40.6%
③変わらない	76人	24.3%
④わからない	75人	24.0%
計	313人	100.0%



(2) ※【問9】(1) で①～③を選択された方のみ

(1)で選択された項目について、どうしてそのように思われたのですか。その理由をお聞かせください。

(主なものを抜粋)

【①よくなっている】

- ・社会の発展、医療の発達、自己の成長、介護負担の軽減などが自分の中で、良くなると思っているため。
- ・子どもたちもそれぞれが独立し、孫に囲まれた穏やかな生活をしていきたいとの願望が、実現できるよう望んでいます。
- ・経済的には、収入も減り支出が増える状況になると思うが、心の余裕ができ、周りのもの・ひとへ気配りができるようになると考える。周りのもの・ひとへの気配りは、自分に返ってくる。年齢がいけば、何事も落ち着いて対処でき、それが日々の豊かな生活につながると思う。
- ・悪い将来を描くより、良い将来を考えながら生活する方がより今の生活が楽しくなるような気がするから。また、より良い将来を築きたいと生活をしていくことこそ、活力を見いだせるのではないかと考えているから。
- ・今が一番経済的にも社会的にもしんどいと思うから。ここで見直しをして将来に活かすつもりで毎日生活している。
- ・老後は良くしたいと思いながら、日々の生活を節制しているので。今のうちに頑張って働きたいと思っているので。

【②悪くなっている】

- ・人口バランスが変わってゆくために公共の対応が今までのようにはいかなくなると思うから。
- ・高齢者を支える低年齢者の人口減に伴い税収が減ることが明らか。
- ・毎日が忙しく、時間に追われ、自然災害、環境破壊等のつげが回ってきて状況は悪くなっているように思う。
- ・現時点で家族がいないので、病気などになったときに支えがないと思うから。
- ・収入は減少するのに、避けられない出費はそれ以上に増加している。
- ・将来の年金や健康保険制度に不安を感じる。

- ・ 少子高齢化の進行、経済情勢の悪化等による税収減が懸念される。
- ・ 自分の暮らしも社会も、過去と比べて現在は悪くなっていると感じる。だから、現在と比べて将来はさらに悪くなっていると予想できる。
- ・ 滋賀県はもったいない政策でインフラ整備が非常に遅れている。車を運転できなければ生活できない所が多い。
- ・ 健康維持に必要な医療関係等の支出額が増えるので、趣味の削減や生活費（衣食住）を抑制しないと暮らせなくなると考えます。段々と地域活動等の交流も減ってきて、家に引きこもりになってしまうのではないかと少し心配している。
- ・ 近隣とのつながり、絆が重要であることはわかっておりますが、なかなか行動に移せないのが現状です。
- ・ さまざまなことを強要されたり、制限されたりする窮屈な社会になっている。
- ・ 高齢化により外出の機会が減少し、地域の人々との交流が減る。
- ・ 他者と接点を持ちたくない人が増えている。
- ・ 高齢化社会になって高齢者に対する思いやりが薄れそうに感じる。

【③変わらない】

- ・ 雇用の問題は回復しつつあるが、年金などの問題はいまだに解決されていないように感じるから。
- ・ 現状が満足する生活なので、このまま豊かで穏やかな生活を送りたい。
- ・ 今もとても満たされて暮らしている。将来も満たされて暮らしていると信じている。そうあるように、家族の健康に留意していきたい。
- ・ 働くことをやめると、収入は低下していくが、支出も下がってくると推測するので、全体としては、それほど変化がないのかと思った。
- ・ 精神的なものを重視している限り社会がどのように変化しようとも変わらないと考える。
- ・ 人との関わり、地域との関わりは、以前は普通に行われていたことだが、高度経済成長以降、日常の多忙さ故に疎遠になってきた。今、人との関わりの大切さを力説しても急に関係改善は望めない。また、共助と言われて久しいが、少子、高齢化の進む世の中であり、どのようにすればよいのか分からず、個人情報の保護等と解釈の違い等で、暮らしの中での変化は変わらないと考える。
- ・ 景気の低迷の影響から脱却できていないと考えられるから。
- ・ 「変わらない」というより「変わってほしくない」。
- ・ 物の豊かさよりも心の豊かさに重点を置いているので。

**問10 10年後、20年後の望ましい社会を展望し、どのような滋賀であって欲しいか、未来の滋賀とそ
の実現のための考え方や方法について、ご意見・ご提案等ございましたら、お聞かせください。（主
なものを抜粋）**

- ・交通体系なども日本の中心的な位置づけであり、この特異性を生かしたビジョンづくりが必要である。
- ・滋賀県自体に関しては、現在も10年、20年後も、それほど住みにくい土地ではないと考えている。経済的な発展を求めるばかりに、豊かな自然、原生林、史跡などが壊れていかないかが心配なところだ。
- ・厚生施設の充実など、比較的、普段は意識しないような要素をしっかりと充実させてほしい。
- ・自動車やバイクを運転できない人にとっても、生活しやすい街であってほしい。徒歩圏内では生活が完結する、もしくは、徒歩圏内では生活が完結する場所にアクセスしやすい街であってほしい。
- ・経済発展を優先せず、住みやすく、環境に配慮した安全な滋賀であってほしい。国政に無条件に傾倒せず、滋賀としての意思表示をはっきりしてほしい。
- ・ミニ東京化を避け主体性のある地方力にて独自の存在感を示せる県を目指す。
- ・若者の雇用を充実させて地元の学生がUターンしてきても大丈夫な生活基盤が整っていてほしい。
- ・自動車に頼らなくても、徒歩や自転車でいける範囲で日常生活が問題なく営めるようになってほしいです。
- ・大阪に近いという利便性を生かしつつ、自然は今のまま残していきたいです。ごちゃごちゃした町ではなく、ゆったりとしたところでありたいです。京都に近い強みを生かして、観光にも力を入れていきたいです。なにより県民自身が、滋賀が大好きと思えるようにしたいです。
- ・自然環境と交通機関等の立地条件に特に恵まれているので、今後は文化、芸術、スポーツ等を日本一楽しめる滋賀県を目指してはいかがでしょうか。
- ・本県人口も、今後減少が必須である。となると、比較的コンパクトな街づくりに努めてきたが、さらに一層、集中化させ、限られた財源を有効に投下する必要がある。
- ・3つの滋賀づくり、「住み続けたい滋賀」、「紹介したい滋賀」、「一度は行ってみたい滋賀」を目指して欲しい。
- ・県南部地域への人口集中でなく、北部地域を含めた県内全体のバランスを念頭に活性化を図り、母なるびわ湖に感謝し、現状を守り続けていく施策の展開を期待しています。
- ・農業、エネルギーにおいて、地産地消を進めること（農業の大規模経営化、間伐材を生かした発電等）で、生活への安心感を高めてほしい。
- ・子育てにおいては、国とは違う形で、在宅での育児にも支援を強化してほしい。子どもが小さい間は自分で子育てしたいという意見も尊重してほしい。海外では、在宅育児手当がある国もあり、子どもが小さい間は働かなくても生活できる制度があるらしいので、そのような政策を県独自に取り入れてほしい。また、その上で子どもが大きくなった際に再就職しやすいような、制度を作ってほしい。
- ・滋賀県基本構想でおそらく言い尽くされているし、後は実現するかどうかだと思う。
- ・滋賀県は車がないと不便だが、高齢化社会を迎えていることもあり、お年寄りや、車を持たない人にももっと楽に移動ができる社会にしてほしい。

問 1 1 滋賀県基本構想に関して、またはその他ご意見等ございましたら、お聞かせください。

(主なものを抜粋)

- ・ 今後はこの基本構想について、県内各地域ごとの実情の分析を行ったうえで、それと照らし合わせ、各地域ごとに実情にあった具体的な施策に落とし込み、市町と協力のもと確実に実施していかれることを望む。
- ・ 目標値の設定と達成状況に疑問を感じます。また、未達に対しての対策が具体的でないため、不安に思う。
- ・ 総花的な事項の羅列は、考え方としてないよりですが、「琵琶湖がある県、京都のお隣の県、京都・大阪のベッドタウン」だけといった国民全体の持つイメージから脱却できるよう独自性のある施策の実現を図ってほしい。
- ・ 限られた人員、費用でできることを、優先順位をしっかりと決めて推進していただきたい。道路ができれば、便利になるのはそのとおりであるが、どれだけの人が利用するのか、他に手段はないのか、費用対効果で本当にやるべきことか、をよく考える必要があると思う。インフラ設備の老朽化が課題となる中、やるべきことは新しく設備をつくることではないと思う。工事業者の方は仕事が欲しいだろうが、本当に何が必要か、よくよく検討いただきたい。
- ・ 基本構想について、10年前と同じ項目が、あるとすれば、本当に成果、目標を再設定して達成するような、行動が必要である。
- ・ 湖北地域の人口は少なく立地条件も悪いところですが地域格差の縮小にも努力すべきで基本構想の適切な地域配分を望む。
- ・ 滋賀県基本構想ですが、内容を熟知しておりません。そのような構想があるのなら、もっと県民に行き渡るような広報が必要だと思います。
- ・ 農業担い手対応の強化を強く要望します。
- ・ 日本一の琵琶湖をもっとPRする活動をしてほしい。湖南地域と湖北地域との地域格差をなくしてほしい。県の文化施設が湖南に集中しすぎです。県立図書館、美術館など交通の便が悪いので行けません。
- ・ 少子高齢化の波は、独居老人、高齢者夫婦家庭を加速度的に増加させている。これに歯止めをかける抜本的対策を県主導で実施すべき。
- ・ 生活の安全や利便性を高めるための公共投資は必要だとは思いますが、その投資対効果の分析は充分に行うべき。単に都会都府県を追いかけたり、マネをするだけの制度や投資・箱物は不要。滋賀県にふさわしく特徴を生かした施策を望む。居住・仕事・学校など、選んで滋賀県に来てもらえるような、県づくりができればよいと思う。
- ・ 特に小中学生の通学路の安全確保は早急な実施が必要だが構想内には具体的な数値目標がない。また、小学生に片道30分以上もの通学時間を強要するような現状が見られるのは好ましくない。学区を柔軟に扱えるようにすべきだ。
- ・ せっかく琵琶湖という資源があるのだから、キレイな琵琶湖を見ながら一周できる、ツール・ド・琵琶湖、琵琶湖マラソンなどができる道を整備していった方がいいと思う。滋賀は道が悪く、どこに出かけても非常に混んでいて困るので、道路の整備をいち早くして欲しい。特に彦根は道が狭く、どの道も混雑するので、国体前に早急に整備して欲しい。また、歩道が無い交通量の多い道が多いので、自転車や徒歩での外出が怖い。ただ緑に塗っただけで、根本的な問題にはならない。